

【科目名】	静岡の防災と医療		Disaster Prevention and Medical Care in Shizuoka		
【開講時期】	2025年度前期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	*森本達也				
【担当教員】	*森本達也、谷澤康玄、砂川陽一、黒川洵子、刀坂泰史、清水聡史、児玉昌美、*特別講師				
【授業目標】	東日本大震災や熊本地震では、津波の影響や土砂崩れ等で人々は甚大な被害を受けた。静岡県においても南海トラフ地震等が予想されており、対策が急務である。 医療体制、及び避難場所の準備、食料支援の確保、PTSDのケア、ボランティアの組織、防災派遣医療チームの連携などのすべてを包括的に学修することで、専門職として、地域に住む個人として、学生として、自ら行動できるよう、知識及び防災活動に関する理解を深める。				
【授業概要】	静岡県内の防災と医療を推進する組織とその活動を理解するとともに、それを支える専門職とその役割、さらには取り組みを紹介し、自らの防災を考え、さらには地域の防災と医療になが貢献できるかを考える。				
【授業方法】	講義に加えて、実演を交えるなど、学生が参加できる方法を併用して行います。 講義室での対面講義を基本としますが、講師陣の勤務先の指針に応じて、双方向を担保したオンラインで講義を行う場合があります。I				
【授業展開】	1 静岡の自然と人・・・静岡県立大学 元学長 2 地震予知とリスクとしての考え方・・・静岡県立大学 グローバル地域センター 特任准教授 3 巨大地震と防災力アップ・・・静岡県地震防災アドバイザー 4 災害に備える栄養と食事・・・静岡県立大学 食品栄養科学部 教授 5 トリアージ・・・静岡県立総合病院 看護師 6 災害時の病院等のロジスティクス・・・静岡県立こども病院 DMAT隊員(業務調整員) 7 災害時のICT活用・・・静岡県立大学 経営情報学部 教授 8 災害医療の基本原則と多様性・・・浜松医科大学 教授(統括DMAT) 9 静岡県の災害医療体制・・・静岡県職員 10 市民活動、応急処置・・・静岡県立大学医務室 看護師 11 広域搬送・・・コミュニティホスピタル甲賀病院 看護師(DMAT隊員) 12 地域防災力・・・NPO法人Knot 理事長 13 害時のこころのケア・・・静岡大学 教育学部 教授 14 災害医療総論・・・静岡県立総合病院 災害医療センター長(統括DMAT) 15 まとめ 講師陣の都合により、順番が変更する場合があります。				
【履修条件】					
【評価方法】	講義毎のミニレポート及び授業への参加度(56%)、筆記試験・レポート(44%)により、総合的に評価します。 出席・ミニレポート提出はユニバーサルパスポートを介して行います。				
【テキスト】	講師陣に応じて、講義資料の電子ファイルを配布します。				
【参考書】					
【備考】	実務に携わっている特別講師が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な活動や考え方を講義します。 特別講師の都合で順番を変更することがあります。 定期試験受験資格は出席が全授業回数の2/3以上とします。 遅刻 2 回で 1 回欠席扱いとします。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	世界からしずおかを見る　しずおかから世界へ		Global perspectives on Shizuoka		
【開講時期】	2025年度前期		【開講時限】	水曜1限	
【科目責任者】	横井　香織				
【担当教員】	富沢　壽勇（副学長、国際関係学部特任教授）、小川　和久（特任教授）、酒井　敏（特任教授）、鴨川　仁（特任教授）、楠城　一嘉（特任教授）、横井　香織（特任准教授）、栗倉　大輔（特任助教）、岩田　孝仁（客員教授）、長尾　年恭（客員教授）、堀　高峰（客員教授）				
【授業目標】	・雄大な富士山や駿河湾があり、豊かな自然と暮らしやすい気候に恵まれているといわれる「しずおか」の自然や歴史・文化を学び、「しずおか」への理解を深める。 ・「しずおかとは何なのか」という問いに対し、自然科学、人文・社会科学の各分野から多角的にとらえ、何が「しずおか」の課題かを理解したうえで主体的に地域にかかわる力を養う。				
【授業概要】	【前半（1～8回）自然災害、危機管理部門】 ・南海トラフ、富士火山、津波など、「しずおか」が直面する自然災害の発生のメカニズムや災害に至るプロセスなどを理解する。また、自然災害に対する防災や減災について過去の事例から学び、「しずおか」で起こりうる災害を自分ごととしてとらえ、より望ましい対策を考察する。 【後半（9～15回）アジア・太平洋部門】 ・「しずおか」が歴史的に外の世界とどうつながってきたのかを、特産品であるお茶や缶詰、人々の交流などをテーマに理解を深め、「しずおか」に存在する多様性や多文化を考察する。				
【授業方法】	グローバル地域センターの教員が、オムニバス形式で講義を行う。 パワーポイントと配布資料にそって、講義形式で授業を進める。講義は対面授業で実施する。				
【授業展開】	1. しずおかと地震（楠城　一嘉）【4月16日】 2. しずおかと津波（鴨川　仁）【4月23日】 3. しずおかと火山（鴨川　仁）【5月7日】 4. しずおかと防災（岩田　孝仁）【5月14日】 5. 駿河湾から防災・地震予知を考える（長尾　年恭）【5月21日】 6. しずおかと南海トラフ（地震・ゆっくりすべり）（堀　高峰）【5月28日】 7. 宇宙船地球号とその乗組員たち（酒井　敏）【6月4日】 8. 静岡県に伝えたい阪神・淡路大震災の教訓（小川　和久）【6月11日】 9. 台湾節としずおか（横井　香織）【6月18日】 10.しずおか茶と日本の近代（栗倉　大輔）【6月25日】 11.幕末維新の海外渡航者としずおか（樋口　雄彦：国立歴史民俗博物館　教授　※外部講師）【7月2日】 12.缶詰王国しずおか（椿原　靖弘：フェルケール博物館学芸部長　※外部講師）【7月9日】 13.庶民のお茶の研究が私をミャンマーの山岳地帯に導いた！（中村羊一郎：静岡市歴史博物館初代館長　※外部講師）【7月16日】 14.しずおかとイスラーム（富沢　壽勇）【7月23日】 15.しずおかとかつお節（ゲストスピーカーとして、かつお節職人の方へ講義を依頼）【7月30日】 ※講義の順番・テーマは変更する場合があります。				
【履修条件】	授業の3分の2以上出席				
【評価方法】	履修条件を満たすこと、及びレポートによる。 レポートは前半（1～8回）から1題、後半（9～15回）から1題。 レポートのテーマは授業の中で提示する。なお、後半「アジア・太平洋部門」では、博物館・資料館で資料収集、取材をしてその成果をまとめる、というレポートを課す予定である。				
【テキスト】	講義ごとに随時プリントを配布する。講義に必要な場合は講義前にユニバーサルパスポートで資料を提示する。				
【参考書】	グローバル地域センターホームページ掲載の論文・コラム、各講師の著作とホームページ				
【備考】	－				
【社会人聴講生】	履修可	【科目等履修生】	履修可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々		Health and Longevity Support in Shizuoka ：Experts and Efforts in the Prefecture		
【開講時期】	2025年度前期		【開講時限】	金曜1限	
【科目責任者】	*森本達也				
【担当教員】	*森本達也、富安真理、*新井英一、黒川洵子、*東野定律、井上和幸、*伊藤純子、刀坂泰史、*前野真由美、*木村綾、砂川陽一、三崎健太郎、*浅原久恵、川上由香、清水聡史、児玉昌美、*特別講師				
【授業目標】	現在日本では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が進められている。静岡県は、全国トップクラスの健康長寿県と言われており、そのような地域での実際の行政や様々な専門職の役割や活動について学び、さらには地域で人々が連携していくための考え方を学ぶ。				
【授業概要】	静岡県内の健康長寿を推進する地域包括ケアの概念を学び、それに基づき運営される各種の組織とその活動を理解するとともに、それを担う専門職とその役割、そして各職種の取り組みを紹介し、自らの健康づくりと、さらには地域の健康づくりになにが貢献できるかを考える。				
【授業方法】	講義や課題学習など学生が参加できる方法を併用して行う。				
【授業展開】	1 ガイダンス 2 地域包括ケアシステムと静岡県内の健康づくりの概要 3 健康長寿を支える専門職1・・・医師 4 健康長寿を支える専門職2・・・看護師 5 健康長寿を支える専門職3・・・薬剤師 6 健康長寿を支える専門職4・・・保健師・助産師 7 健康長寿を支える専門職5・・・理学療法士 8 健康長寿を支える専門職6・・・社会福祉士 9 健康長寿を支える専門職7・・・歯科衛生士 10 健康長寿を支える専門職8・・・行政の役割 11 健康長寿を支える専門職9・・・作業療法士 12 健康長寿を支える専門職10・・・外国人への支援 13 健康長寿を支える専門職11・・・ボランティアの役割 14 健康長寿を支える専門職12・・・管理栄養士 15 健康長寿を支える専門職13・・・介護支援専門員				
【履修条件】					
【評価方法】	ミニレポート・授業への参加度（56%）および筆記試験・レポートなど（44%）により評価します。よって総合的に評価する。				
【テキスト】	必要に応じて資料を配布する。参考書は授業の中で紹介する。				
【参考書】					
【備考】	特別講師の都合で順番を変更することがあります。 実務に携わっている特別講師が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な活動や考え方を講義する。 基本的には対面講義形式をとるが、場合によってはオンライン講義形式等もある。 全講義回数の3分の2以上の出席が単位認定に必須である。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎生命科学Ⅰ		Introduction to Life SciencesⅠ		
【開講時期】	2025年度前期		【開講時限】	金曜1限	
【科目責任者】	Toshiro Ohta（太田敏郎）				
【担当教員】	Toshiro Ohta（太田敏郎）				
【授業目標】	The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences. 網羅的な生命科学概論ではなく、生命科学(医学・食品栄養科学)分野の基本的な英語表現に慣れ親しみ、英文を読解・作文・聞き取り・発声する能力を高めることが主な目標。入試後に衰えがちな語彙力も強化。主に1~2年生(大学初~中級レベル)の総合的な英語力向上(留学生なら日本語力向上)のための授業ですが、インプット不足で英単語力や長文読解力・文法力が低下している3~4年生への対応も目的の一つ(意味を正確に理解した英文と単語・フレーズの大量インプット&忠実アウトプット演習)。				
【授業概要】	Students will translate news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences into Japanese and back into English. In addition, important grammatical topics will be covered in detail. DUO, a general-purpose wordbook, will be used for vocabulary building. 1. 世界的な英語教材Voice of America(略してVOA)生命科学記事の和訳演習:視覚的な構文解析と実用的な文法解説 2. VOA英文を再現する英作文演習(VOA聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集DUOを用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能をペアワーク):前半(後半は基礎生命科学IIで) 4. 大学入学後に学ぶべき実用英語への導入として、可算不可算名詞(不定冠詞・無冠詞)と句動詞について文法解説 5. 学生からの要望が多いTOEIC対策(任意受講の予定):前期はp2(後期にp2,p3&4)				
【授業方法】	対面授業が原則、授業時数の半数を超えない範囲で遠隔授業を実施(詳細はUNIPA授業資料でご確認ください) ※DUO演習は友人とペアワークすることで効果やモチベーションが向上(1人で受講の場合は教員が相手を指定)				
【授業展開】	1. Course Introduction: Voice of America Learning English program 2-5. Eating White Rice Increases Risk of Diabetes 6-8. Vitamins: D and the Diet 9-11. Less Salt Can Mean More Life 12-14. Study Links Midlife Belly Fat to Higher Risk of Dementia 15. Course Summary DUO vocabulary exercises and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細はUNIPA授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	Both natural science students and social science students can participate. 学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約5割、平均で約2割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の1&2年生で英語力不足を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生はDUOなど一部の演習が環境科学英語Iと重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自信がない学生は、後期の実用科学英語基礎編で英文法を包括的に学ぶ前にこの基礎生命科学Iで個別的文法解説に慣れておくことを強くお勧めします。参考までに、過去のアンケートでは後輩に薦めたい点としてDUOペアワーク演習が最も多く挙げられ(TOEIC高得点の学生にも好評)、そのあとは教員によるDUO単語解説・VOA文法解説・可算不可算名詞英文法解説[以下略]という順番。				
【評価方法】	Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes. 成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には3分の2以上の出席が必要。				
【テキスト】	「DUO 3.0」 鈴木陽一 著 [アイシーピー](全員購入必要)、VOA episodes and other materials will be handed out.				
【参考書】	UNIPA授業資料で紹介予定				
【備考】	※前期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この基礎生命科学I:主に1~2年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も受講可(大学初~中級、TOEIC初~中級) DUO語彙演習(TOEIC対策にも有効)、VOA和訳&英訳演習と個別的文法解説、TOEICp2演習&解説(任意受講の予定) 2. 実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的文法解説、英文法深掘り解説、TOEICp1~4即効テク解説、p2~4熟練スキル演習&解説 ※後期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 基礎生命科学II:前期の基礎生命科学Iの継続 4. 実用科学英語基礎編:全年次対象、学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説(大学初~上級、TOEIC初~中級) TOEIC対策:p5&6コツ解説&演習、簡便なp2演習				
【社会人聴講生】	可(要相談)	【科目等履修生】	可(要相談)	【交換留学生】	Possible(可)

【科目名】	中国現代史A		Modern History of China A		
【科目種別】	ブリッジ科目（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2025年度前期	【開講時限】	木曜3限	【オフィス・アワー】	木曜4限
【科目責任者】	大野絢也				
【担当教員】	大野絢也				
【授業目標】					
●授業目的	現代中国が成立するまでの歴史について多角的な視点から学ぶ。				
●到達目標	①中国現代史について理解するための基礎的な知識を習得すること。 ②中国の経済力が何に由来し、いかなる構造的な特質を持っているのか、理解すること。 ③中国を中心とした東アジアにおける諸問題の背景や歴史認識の差異について、理解すること。				
【授業概要】	現代世界において、中国の存在感は急速に増大している。その最大の理由の一つは、中国の持つ大きな経済力にある。そのため本授業では、中国の経済力が形成されてきた経緯を地理分布や社会背景をもとに紐解きながら、通史的な中国像とは異なる側面も含めて理解する事を目指す。このような中国の経済力が何に由来しているのか、過去にどのような政治・経済・社会等の展開過程をたどり、強靱さと脆弱性を含め如何なる構造的な特質を有し、今後どのような展開をたどると考えられるのか、様々な切り口から見ていくことに重点を置く。				
【授業方法】	基本的に対面形式で講義を進める。その他、各学期の導入（初回）と総括（最終回）において、グループワークを実施する。グループワークでは、導入において中国史に関するキーワードを抽出し、総括では自らの考えについて意見を表明し、グループ毎で討論を行う。				
【授業展開】	第1回 初回ガイダンス・導入（グループワーク：キーワードの抽出） 第2回 中国史を学ぶ意義と方法について 第3回 前近代中国の政治・経済・社会史 第4回 空間的なアプローチから見た中国史（1）：巨視的地方概念 第5回 空間的なアプローチから見た中国史（2）：二大河川と大運河 第6回 空間的なアプローチから見た中国史（3）：領域の拡大 第7回 中国の対外関係史（1）：華夷体制の構築 第8回 中国の対外関係史（2）：東西交渉史 第9回 中国の対外関係史（3）：西洋の衝撃 第10回 近代国家としての中国の歩み（1）：近代中国の内憂外患 第11回 近代国家としての中国の歩み（2）：洋務運動と中体西用 第12回 近代国家としての中国の歩み（3）：変法自強運動 第13回 革命と民国の成立（1）：光緒新政と革命運動の勃興 第14回 革命と民国の成立（2）：辛亥革命と清朝滅亡 第15回 総括（グループワーク：討論）				
【履修条件】	東アジア史や中国史に関心があり、積極的に授業に参加する意欲があること。				
【評価方法】	期末試験（40%）、グループワーク（40%）、出席状況（20%。欠席3回で原則不可）、などに基づき、総合的に評価する。詳細な説明は初回ガイダンスで行う。				
【テキスト】	特に指定しない。資料を随時配布する予定。				
【参考書】	次の参考文献は、授業内容に関連する主要なものとして刊行年順に挙げる。1.小島朋之『中国現代史：建国50年、検証と展望（中公新書）』中央公論新社、1999年。2.久保亨、土田哲夫、高田幸男、井上久士編『現代中国の歴史：兩岸三地100年のあゆみ』東京大学出版会、2019年。3.川島真、毛里和子『グローバル中国への道程：外交150年』岩波書店、2009年。4.吉澤誠一郎ほか『シリーズ中国近現代史①～⑥（岩波新書）』岩波書店、2010～17年。5.上田信『人口の中国史（岩波新書）』岩波書店、2020年。その他、初回ガイダンス時に参考文献リストを配布する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	基礎経営学		Basic Business Administration		
【配当年次】	1年		【開講時期】	2025年度前期	
【科目責任者】	竹下 誠二郎				
【担当教員】	*竹下 誠二郎				
【授業目標】					
●授業目的	1) 経営学の基本的概念を理る。 2) 組織経営の観点から日々の企業・組織に関する事例を理解できるようになる。				
●到達目標	主に企業や組織の運営における基本的概念を培う。 今後、深査したい経営分野が明確化できるようになる。				
【授業概要】	経営学を初めて学ぶ学生を対象に、企業や組織を運営・管理するための体系・理論の習得を目指す。企業や組織は戦略と方向感を定め、限られた資源を分配し、事業を展開する。これらを実行に移すための様々な経営戦略やマネジメント、そして企業活動において不可欠なマーケティングや資金調達などの財務管理についても習得する。最終的には日々起きている企業・組織の事例を経営学の観点から考えることができるようにする。				
【授業方法】	レクチャーが中心だが、理論をよりよく解釈するために、過去・現在進行中の企業事例を頻繁に使い、実践的な考え方を身につけることも目指す。ゲスト・スピーカーも招くことがある。質問、発言など、生徒の積極的な参加を大いに重視する。				
【準備学習】	テキストを読んでおくこと： 榊原清則著『経営学入門』（上巻、下巻）日本経済新聞出版社 授業後に、事前学習で調べた内容について授業で学んだことと照らし合わせて振り返りすること				
【授業展開】	第1回 イントロダクション 第2回 経営学とは何か 第3回 組織行動論 第4回 組織理論 第5回 コーポレート・ガバナンス 第6回 社会科学における調査と分析 第7回 経営戦略論（1）：戦略論の基礎 第8回 経営戦略論（2）：競争戦略論 第9回 成長戦略と組織 第10回 国際化の戦略と組織 第11回 イノベーションの戦略と組織 第12回 コーポレート・コミュニケーション / CSR 第13回 マーケティング 第14回 ファイナンス・財務管理 第15回 日本の経営課題・まとめ 第16回 期末試験				
【履修条件】	（既習指定科目など）特になし				
【評価方法】	授業への取り組み：50%、期末試験：50%				
【テキスト】	榊原清則著『経営学入門』（上巻、下巻）日本経済新聞出版社				
【参考書】	参考文献は適宜紹介・配布する。				
【備考】	国内・海外の金融機関において長期かつ多彩な海外勤務経験を有する教員が、そこでの実務経験も踏まえ、基礎経営論について講義する。				
【旧カリキュラム読み替え科目】					
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】		【交換留学生】	

【科目名】	行財政学概論		Introduction to Public Administration and Finance		
【配当年次】	1年		【開講時期】	2025年度前期	
【科目責任者】	＊松岡 清志				
【担当教員】	＊松岡 清志				
【授業目標】					
●授業目的	本学部で学ぶ4分野のうち総合政策はもちろんのこと、それ以外の経営、データサイエンス、観光の分野においても何らかの形で政府や地方自治体との関わりを持っており、私たちが日々の生活を営む中でも様々な接点を有しています。本講義ではこのような政府や自治体に関する基本的な仕組みを習得することを目的とします。				
●到達目標	政府や地方自治体の仕組みについて幅広い観点から知識を深め、社会課題の解決や望ましい社会像の実現における政府や地方自治体の役割について考察できるようになることが目標です。				
【授業概要】	冒頭に行政および財政とはいかなるものかを簡潔に紹介したうえで、行財政に関する諸要素を解説いたします。加えて、講義内では国および地方自治体が行う政策や、その他時事ニュースについての解説も適宜行います。				
【授業方法】	事前に提供した事前に提供した資料をもとに、板書を中心とした補足説明を交えて講義を行います。講義内では受講者のみなさんに意見をうかがう機会や、ミニワークもありますので、講義への積極的な関心を持って受講してください。なお、外部講師を招聘する可能性もあります（昨年度は県外自治体のデジタル・トランスフォーメーション担当者の方をお招きしました）。講義内容について質問がありましたら、どうぞご遠慮なくお尋ねください。				
【準備学習】	講義資料を事前にUniversal Passportにアップロードしますので、事前に目を通し疑問点を洗い出すようにしてください。また国や地方自治体の関連する動向を各種メディアでチェックすると講義で学んだことが現実の社会と紐づけて考えられ、深い理解につながります。				
【授業展開】	第1回 イントロダクション 第2回 行政および財政とは何か 第3回 行政の役割、行政と政治の関係 第4回 国と地方自治体の関係 第5回 行政と民間の関係 第6回 内閣と中央省庁 第7回 公務員制度 第8回 行財政に関する最新のトピック 第9回 公共政策のライフサイクル（1） 第10回 公共政策のライフサイクル（2） 第11回 日本の予算過程と決算 第12回 財政の機能と財政民主主義 第13回 税と社会保障 第14回 財政の持続可能性 第15回 講義のまとめ				
【履修条件】	特に前提となる条件はありませんが、高校の公民や政治・経済の教科書の内閣・地方自治・財政などの部分に目を通しておくとう理解が深まるものと思われます。				
【評価方法】	学期中に数回実施するミニレポート20点と学期末に実施する試験80点を合算して評価を行います。				
【テキスト】	特に指定しません。講義資料については事前にオンライン上で提示致しますので、各自ダウンロードまたは印刷のうえ、ご参加ください（教室での資料配布は原則として行いませのでお気をつけください）。				
【参考書】	縣公一郎・藤井浩司（編）『コレーク政策研究』成文堂、2007。 縣公一郎・藤井浩司（編）『ダイバーシティ時代の行政学』早稲田大学出版部、2016。 秋吉貴雄『入門公共政策学 社会問題を解決する「新しい知」』中央公論新社、2017。 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎（第3版）』有斐閣、2020。 伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学〔新版〕』有斐閣、2022。 宇野二郎・長野基・山崎幹根（編）『テキストブック地方自治の論点』ミネルヴァ書房、2022。 北山俊哉・稲継裕昭（編）『テキストブック地方自治（第3版）』東洋経済新報社、2021。 曾我謙悟『日本の地方政府 1700自治体の実態と課題』中央公論新社、2019。 高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020。 西尾隆『現代の行政と公共政策』放送大学教育振興会、2016。 西岡晋・廣川嘉裕（編）『行政学』文眞堂、2021。 藤井浩司・縣公一郎（編）『コレーク行政学』成文堂、2007。 藤巻秀夫（編著）『地方自治の法と行財政』八千代出版、2012。 森田朗『現代の行政 新版〔第2版〕』第一法規、2022。 その他、適宜紹介いたします。				
【備考】	担当者は、2020年度まで行政のデジタル・トランスフォーメーションに関する研究機関に在籍し、国および地方自治体におけるデジタル技術の活用、公共サービス提供における行政と民間および個人の協働などについて研究を行うとともに、行政機関の先行事例に関する調査やガイドライン作成の支援を行った経験を有しております。本講義では、これらの経験を踏まえた近年の動向についても解説する予定です。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	なし。				
【社会人聴講生】	受入可能です。但し、評価方法につきましては同	【科目等履修生】	受入可能です。但し、評価方法につきましては同	【交換留学生】	受入可能です。但し、講義は原則として日本語で行い

	一の条件となりますので ご了承ください。		一の条件となりますので ご了承ください。		ます。また、評価方法につ きましては同一の条件とな りますのでご了承ください い。
--	-------------------------	--	-------------------------	--	--